



8月からは実際の舞台を想定した立ち稽古が始まり、9月中旬には能登演劇堂での通し稽古に入る。

9月18日から行われるマクベス公演は「能登限定」公演。成功すればこれまでの演劇界の常識を覆すまでといわれる前例のない大舞台。チケットの売れ行きは好調でキャンセル待ちの状況。日本全国からここ七尾に大きな注目が寄せられている。

また、当日上京した武元市長は「地元としては無名塾が思い切り力を発揮できるよう、側面から支援していきたい。市民は公演を心待ちにしている。健康に留意して、いい芝居をお願いしたい」と激励の言葉を述べた。

去る7月13日、無名塾の出演者が勢ぞろいしてマクベス公演に向けた初稽古が行われた。

無名塾を主宰する仲代達矢さんは「能登でマクベスをやろうと話をしてから2〜3年が経った。それが実を結んで今日の日を迎えることができた。これは石川県や七尾市の協力なしではなしえなかったこと。仲代マクベスの集大成として壮大な舞台にしたい」と気持ちを引き締めた。

『マクベス』始動!!

— 出演者が東京で稽古初め —



【最新チケット情報】

マクベスのチケットは、『満席』(全32,600席)です。
ただいまキャンセル待ちの受付を始めています。

受付時間 8:30~17:00 ※土日祝日(月曜除く)も受付しています。

問 能登演劇堂 ☎66-2323

自分の住むまち 生まれたまちに 誇りを持つて



能登の魅力熱く語る

生まれも育ちも東京の私は、映画や演劇の仕事で、日本全国、北は北海道から南は沖縄までいろんなところへ行ったが、日本地図を見たとき、能登半島だけ訪れていなかった。今から25年前、中島町を拠点にして約1週間にわたり能登半島を周ったのが、演劇合宿をするきっかけとなった。

ここは静かな海に囲まれ、山もあり、魚もおいしい、古いものも残っている。こういう素晴らしい景色を持ったところは珍しい。こういうところで若者たちと一緒に芝居の稽古が出来たらなどの思いを地元の方に話しているうちに「年に10日ほど、祭りの日に合わせていらっしやいませんか？」ということ言われ、その言葉に甘えて、お邪魔することになった。無名塾の若者たちは皆、この景色を懐かしがり、それぞれの故郷のように感じていたが、私は東京生まれで故郷がないため、能登が故郷みたいな感じである。無名塾がここまで成長できたのも、能登のおかげだと感謝している。実際に住んでいる方は、とても不自由なところなので都会のような便利なおところに行ってみたくてというが、われわれ都会人から見ると、こんな素朴で空

気のきれいな景色のいいところは、一種の憧れみたいなもの。地元の方たちの考え方とわれわれの考え方とは多少違うのかもしれないが、われわれは都会の慌ただしい生活の中にずっと生きているため、能登に来ると心が安らぐ。自分の住むまちや生まれたまち、愛するまちに誇りを持って、これ以上ないところだと思っしてほしい。

また、能登演劇堂は私が監修をしたものだが、全国のあらゆるところを見てまわり、他の劇場にはないものを作ろうとの思いで出来た劇場である。日本の中でも、誇るべき劇場。この劇場は、七尾の宝物であり、能登全体、石川県全体の宝物である。日本を代表する劇場の一つとなってもらいたい。ここには、そんな誇るべき劇場があるんだと思っしてほしい。

七尾は素敵なおところ。25年間、無名塾として大変お世話になっているところ。今度のマクベスでは、恩返しのもりで一生懸命頑張りますので、皆さんのご支援をよろしくお願いします。



社団法人七尾青年会議所 創立50周年記念講演会
演題 「能登の魅力・能登人の魅力」

講師…無名塾 仲代達矢 氏(七尾市名誉市民)

6月27日(土) 和倉温泉観光会館